

# 強者の戦略

東大日本史のみかた 35 [問題編]

こんにちは、日本史の岡上です。さて、第 35 回となる今回は 2018 年の東大日本史の第 2 問を取り上げてお話をしていきたいと思います。さあ、しっかり問題を考えてみてください。

## 【2018 年度 東京大学 文科前期 第 2 問】

次の(1)～(5)の文章を読んで、下記の設問 A・B に答えなさい。

- (1) 『建武式目』第 6 条は、治安の悪化による土倉の荒廃を問題視し、人々が安心して暮らせるようにするためには、それらの再興が急務であるとうたっている。
- (2) 室町幕府は、南北朝合体の翌年である 1393 年に土倉役・酒屋役の恒常的な課税を開始した。土倉役は質物数を、酒屋役は酒壺数を基準に賦課され、幕府の年中行事のうち年間 6000 貫文がここから支出された。
- (3) 正長・嘉吉の土一揆は、土倉に預けた質物を奪い返したり、借用証書を焼くなどの実力行使におよんだ。嘉吉の土一揆は、それに加え、室町幕府に対して徳政令の発布も求めた。
- (4) 室町幕府は、1441 年、嘉吉の土一揆の要求をうけて徳政令を発布したが、この徳政令は幕府に深刻な財政難をもたらした。
- (5) 室町幕府は、1455 年の賀茂祭の費用を「去年冬徳政十分の一、諸人進上分」によってまかなった。

### 設 問

- A 室町幕府の財政にはどのような特徴があるか。その所在地との関係に注目して 2 行以内で述べなさい。
- B 徳政令の発布が室町幕府に深刻な財政難をもたらしたのはなぜか。また、それを打開するために、幕府はどのような方策をとったか。あわせて 3 行以内で述べなさい。